

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年4月10日

研究・研修課題名	日本医療社会福祉協会「第9期保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修」受講
研究・研修組織名（所属）	医療サービス課
研究・研修責任者名（所属）	林 元之（医療サービス課）
共同研究・研修者名（所属）	春日 みゆき（医療サービス課）

目的及び方法、成果の内容

①目的

診療報酬改定で退院支援に係る①退院調整加算（地域連携計画加算がさらに加算される）、②退院時共同指導料、等が改正され、③介護支援連携指導料を含めて、地域連携が重要なポイントとなった。平成26年の診療報酬改訂でも、7対1看護体制では在宅復帰率75%が求められている。退院調整に係る加算点数は、平成22年106,680点、平成23年155,700点、平成24年226,480点、平成25年度290,290点と急増している。点数の増加に伴い、地域連携の要となる医療ソーシャルワーカーに対して、更に質の高いソーシャルワークスキルが求められている。

保健医療分野で特化される力量を獲得し、他機関・他職種との連携が図れ、管理能力を有する熟達したソーシャルワーカーの育成を目的とした当研修を受講する。研修内容を他のソーシャルワーカーに伝達、共有することにより、ソーシャルワーカー全体のスキルアップが図れ、平均在院日数短縮、退院支援に係る各種加算増加につなげ、質の高い退院支援を行うことができる。

②方法

日本医療社会福祉協会「第9期保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修」受講
内容：通信研修（課題レポート）とスクーリング（3泊4日の対面研修）

①通信研修（テキストで自己学習の上、学期ごとに課題レポート提出）

第1学期：（平成24年8月から10月）

保健医療分野のソーシャルワークの歴史と動向

医療と社会経済

医療機関の機能とソーシャルワーク

第2学期：（平成24年10月から平成25年1月）

医の倫理とソーシャルワーク

生活障害とソーシャルワーク

連携・協働

第3学期：（平成25年2月から4月）

実践の評価・記録

組織と業務管理

保健・医療・福祉関連法規・制度

①については、平成24年度で終了。

②スクーリング（平成 26 年 8 月 28 日（木）～8 月 31 日（日）の 3 泊 4 日）

講義：医療制度に関する講義
医療知識に関する講義
トピックス

演習：価値、倫理、権利の理解、アセスメント能力・技術
面接技術、コミュニケーション技術、実践研究能力、
プレゼンテーション

最終日にレポート提出

③成 果

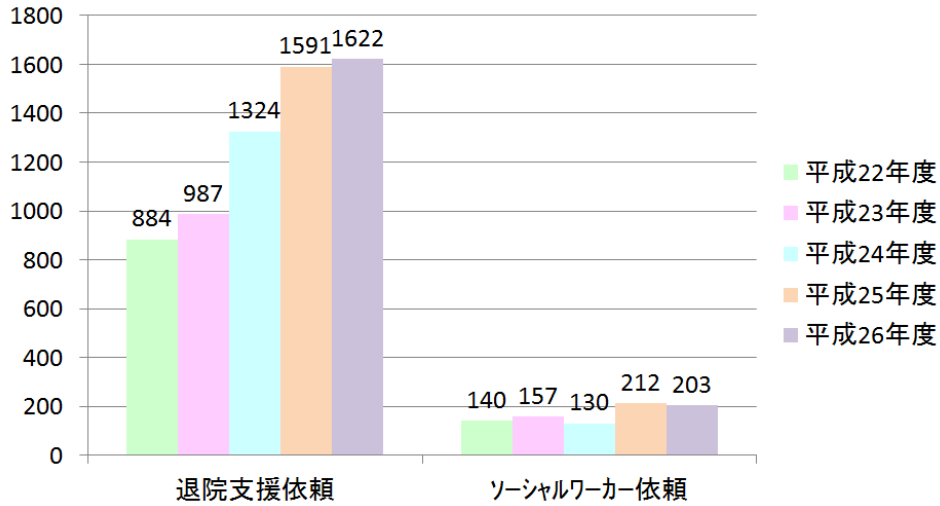
この研修は、1 年間の通信によるレポートを終了した者が受講するスクーリングであり、研修の修了者像は「保健医療分野で特化される力量を獲得し、他機関・他職種との連携が図れ、管理能力を有する熟達したソーシャルワーカー」であった。研修の責任者である医療社会福祉協会会長が「この研修はトップオブトップの研修ですから」と挨拶され、内容はとても高度なプログラムで構成されていた。

毎年実施されている研修だが、今年初めて行われたものもいくつかあり、新しい情報などが盛り込まれ、参考になることがたくさんあった。例えば、SW 介入基準やクオリティーインジケータ（QI）は、ソーシャルワーカーの介入の根拠や業務の質を可視化したものであり、院内でも取り組んでいくことができるものであると考える。多職種連携のコンピテンシー（連携する技術を発揮するために必要な基本的力）については、他職種にソーシャルワーカーの専門性を伝えることに役立つ。証拠立ててものを言う、仕事をどう可視化するか、力量を高めるためにはクリティカルな見方が必要であることがわかった。

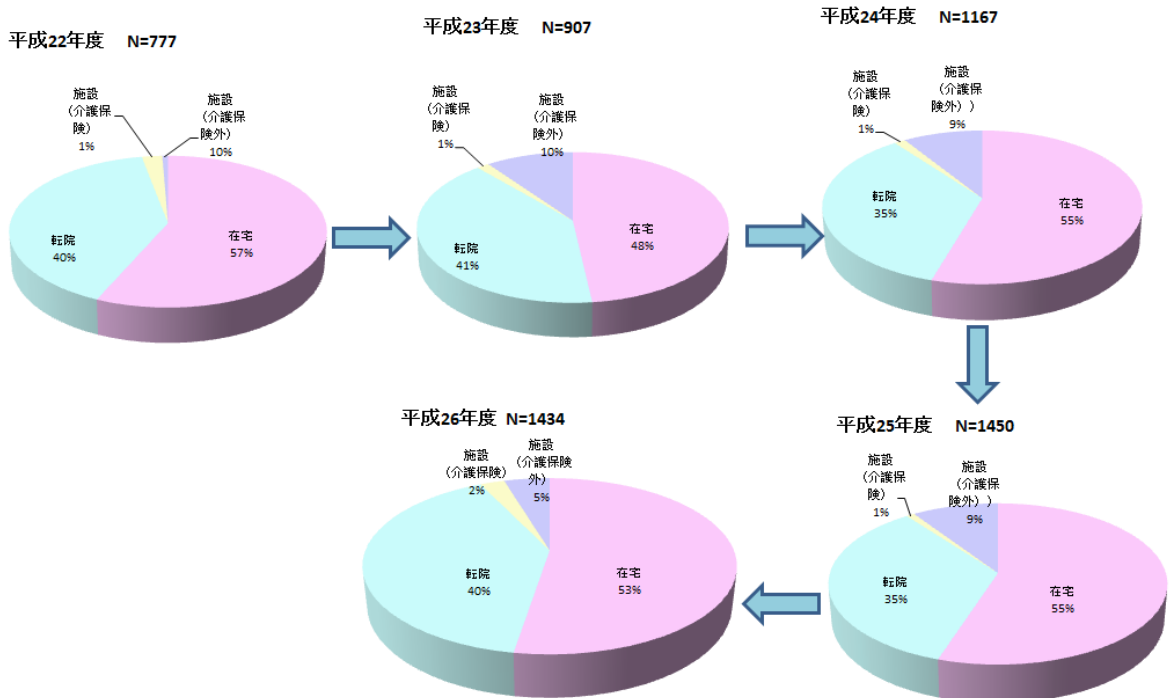
この研修を連携センターのスタッフに伝達研修を行ない、ソーシャルワーカーのスキルアップを図っていく。業務の可視化については現在検討中であり、平成 27 年度に向けて取り組む予定。地域包括ケアに向けた当院の取り組みについて、あるべき姿を見据えながら、実務レベルで行なう内容を検討していく必要があることが明確になった。

当院では事前要望書を運用しており、相談窓口は医療ソーシャルワーカーである。国立長寿研究センターでは人生最終段階における意思決定支援事業において、相談を担う医療ソーシャルワーカーの養成を目的としたモデル事業を実施している。人生の最終段階での意思決定支援は医療ソーシャルワーカーに求められている。又、当院は臓器提供施設に指定されており、今後の脳死下臓器提供や心停止下臓器提供発生時には、心理社会的支援、倫理に配慮した支援が求められる。この研修会で医の倫理を学んだことで、医療ソーシャルワーカーとして倫理に基づいた支援を行なうことができる。

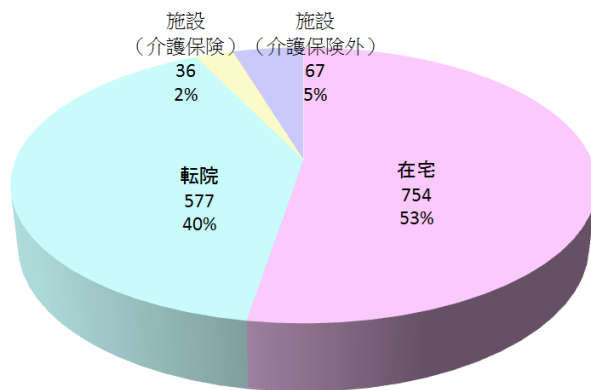
新規退院支援・ソーシャルワーカー依頼件数 (平成22～26年度の比較)



退院先の割合 (平成22年度～26年度比較)



平成26年度 支援対象者の退院先 N=1,434



退院調整に係る各種加算点数 (平成22～26年度比較)

